

YOROZU

環境レポート 2016



目次

表紙

目次

1. 会社概要	P1
2. 当社の製品	P2
3. ヨロズ行動憲章	P3
4. メッセージ	P4
5. 環境の取り組み	
1) ヨロズグループ 環境理念	P5
2) 環境方針	P5
3) スローガン	P5
4) 環境目的	P5
5) 2016年度 ヨロズグループ環境目標	P5
6) 環境組織	P6
7) ヨロズグループISO14001認証取得状況	P7
8) 環境教育	P8
9) 環境標語	P8
10) 環境関連法規制対応状況	P9
11) グリーン調達	P10
12) 省エネルギーへの取り組み	P11
13) 廃棄物リサイクルへの取り組み	P14
14) 生物多様性の取り組み	P15
15) 社会貢献活動	P17
16) 環境データ集	P18

報告対象期間 2016年4月1日～2017年3月31日（一部、対象期間外データあり）

1.会社概要

事業概要	自動車部品、農業機械部品、生産設備の開発設計・製造
所在地	神奈川県横浜市港北区榑町3丁目7番地60号
創立時期	1948年4月1日
従業員数（連結）	7,491 名（2017年3月末現在）
ISO14001取得時期	2009年11月（グループ取得）

■ ヨロズグローバルネットワーク

日本

株式会社ヨロズ

- ・横浜本社（YC）
- ・YOROZUグローバルテクニカルセンター（YGTC）

ヨロズグループ

<生産設備製造拠点>

- ・株式会社ヨロズエンジニアリング（YE）

<生産拠点>

- ・株式会社ヨロズ栃木（YT）
- ・株式会社ヨロズ大分（YO）
- ・株式会社ヨロズ愛知（YI）
- ・株式会社庄内ヨロズ（SY）

<関連会社>

- ・株式会社ヨロズサービス（YS）

米州

- ・ヨロズアメリカ社
- ・ヨロズオートモーティブテネシー社（YAT）
- ・ヨロズオートモーティブノースアメリカ社（YANA）
- ・ヨロズメヒカーナ社（YMEX）
- ・ヨロズオートモーティブグアナファト デメヒコ社（YAGM）
- ・ヨロズオートモーティブバドブラジル社（YAB）
- ・ヨロズオートモーティブアラバマ社（YAA）

アジア

- ・ヨロズタイランド社（YTC）
- ・ワイ・オグラオートモーティブタイランド社（Y-OAT）
- ・广州萬宝井汽車部件有限公司（G-YBM）
- ・武漢萬宝井汽車部件有限公司（W-YBM）
- ・ヨロズJBMオートモーティブタミルナドゥ社（YJAT）
- ・ヨロズオートモーティブインドネシア社（YAI）
- ・ヨロズエンジニアリングシステムズタイランド社（YEST）

欧州

株式会社ヨロズ 欧州事務所



2.当社の製品

サスペンションは、クルマの高性能化を実現するためのキー・テクノロジーのひとつです。「走る」「止まる」「曲がる」という重要な運動機能を支えているばかりでなく、進化するクルマの価値そのものに大きく貢献しています。当社は、時代のニーズに柔軟に対応しながら、先進の開発技術を駆使し、サスペンションの主要な骨格部品となるメンバーやリンク類、複数の部品を統合したモジュール製品等を多彩に供給しております。

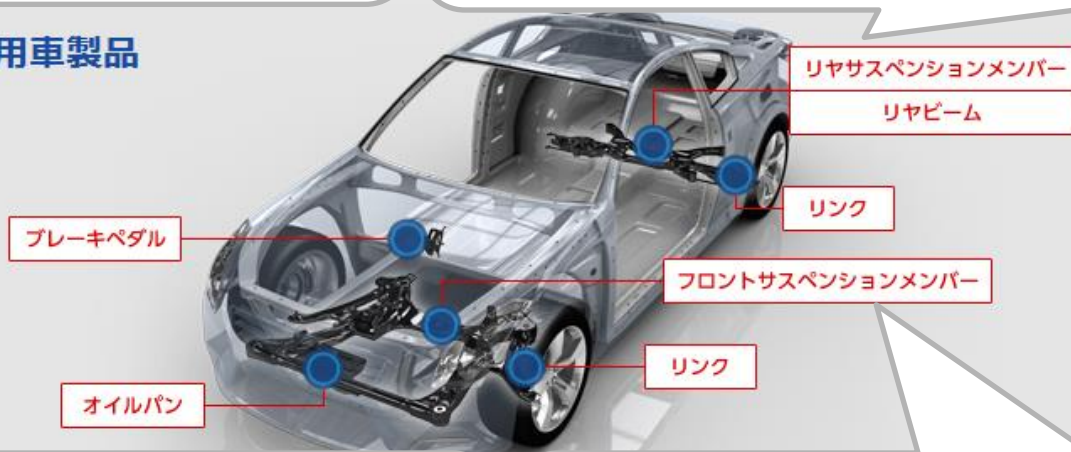
今では国内はもとより、海外の自動車メーカーからも「サスペンションのヨロズ」という定評を獲得するに至っています。当社は単なる部品供給メーカーの領域を越え、開発を含めた自動車メーカーの良きパートナーとして、また低炭素社会を拓く自動車産業の一員として、新しい時代の新しいクルマ作りに貢献しています。



リンク類



乗用車製品



モジュール



3.ヨロズ行動憲章

■ 基本理念

ヨロズグループの経営姿勢は、「高い倫理観と遵法精神により、公正で透明な企業活動を推進すること」を基本としている。このためには、関連法令の遵守はもちろんのこと、良き企業市民として社会的責任を果たし、全てのステークホルダー（※1）からの信頼を得て、企業価値を高めることが必要であると認識し、ここにヨロズグループの企業行動憲章を定める。

※1）ステークホルダー：株主、社員、顧客、取引先、地域社会等

1）お客様の満足と技術革新

有用で信頼性の高い製品やサービスを、安全に十分配慮して開発、提供し、お客様の満足と信頼を獲得する。

2）法令等の遵守

日本及び海外におけるあらゆる法令、社内規定を遵守し、社会的良識をもって行動する。

3）環境問題への取り組み

世界環境保全への取り組みを重要課題の一つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かな暮らしに貢献する。

4）グローバル企業としての発展

国際社会における企業市民としての責任を自覚し、各国、各地域の文化及び習慣を尊重し、企業活動を通じて地域経済の繁栄に貢献してゆく。

5）企業情報の開示

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、積極的に企業情報を正確かつ公正に、適時適切に開示する。

6）人権の尊重

社員の人権を尊重し、差別を行わない。また人材育成を通じて企業活力の維持、向上を図るとともに社員の人格、個性を尊重する。

7）公正な取引

公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。

8）経営幹部の責任

経営者は、自ら率先垂範し「ヨロズ（グループ）行動憲章」の精神の実現に努める。万一本憲章に反するような事態が発生した場合には、経営者自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また、社会にも迅速かつ的確な情報公開を行うとともに、権限と責任を明確にした上で、自らも含めて厳正な処分を行う。



4.メッセージ

ヨロズグループの取り組み 「愛される会社、百年企業へ」

近年、気候変動に起因する事象が顕著に現れるようになってきました。集中豪雨、洪水、猛暑など日本においてもその変化は感じられます。ヨロズでは、地球環境保全への取り組みを重要課題の1つとして位置付け、生産過程だけでなく、製品の開発から原材料の調達、出荷、廃棄されるまですべての業務領域において環境保全に配慮し、企業活動を行っています。

労働人口の減少・ワークスタイルの変化に対応し、百年企業としていくために、今年度より社内に「働き方改革委員会」を発足しました。今の日本人の働き方は生産性の低さを労働時間でカバーするやり方であり、このままでは働く仲間を幸せにできないと考え、自らが委員長となりスタートさせました。

いかに効率的に仕事をこなし、生産性を向上させることができるかが、この活動のキーポイントとなります。これは仲間のワークライフバランスを考えた暮らしに貢献することはもちろんですが、同時に省エネを始めとした環境保全活動にも継続的に寄与することになります。

ヨロズは1948年に創業し来年で70周年を迎えます。これもひとえにステークホルダーの皆さまのおかげでございます。これからも自動車業界のグローバル企業の一員として、「愛される会社、百年企業」を目指してまいります。

長期的に企業活動を行う上で昨年度末に2030年をターゲットとした環境目標を策定いたしました。今まではCO2など前年度比1%の削減目標を継続運用して削減を図ってきましたが、固定の目標をつくり公表することで「責任ある企業活動」の取り組みを皆さまへ理解していただくことが可能になったと思います。今回の目標策定を機に、持続可能な企業として社会へ貢献したいと思います。

代表取締役社長
志藤 健

The logo for YOROZU, featuring the word "YOROZU" in a bold, blue, sans-serif font. The letter "O" is stylized with a circular pattern of diagonal lines.

5.環境への取り組み

1) ヨロズグループ 環境理念

『ヨロズグループは、地球環境保全への取り組みを重要課題の1つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かなくらしに貢献いたします。』

2) 環境方針

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉えて環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの充実と継続的改善を図る。
2. 環境に関する法令、条例、協定及び要求事項を順守し、環境汚染を未然に防ぐ。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減、水の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 環境負荷低減型の製品づくりおよび技術開発を行う。
5. 環境に負荷を与える物質の削減に取り組む。
6. 地域社会と共生し、環境保全に関する積極的な情報交流と情報提供を行う。

3) スローガン

『我々は、CSRに基づき、自然の恵みに感謝し、自然環境との調和ある成長を目指します。』

4) 環境目的（国内7社）

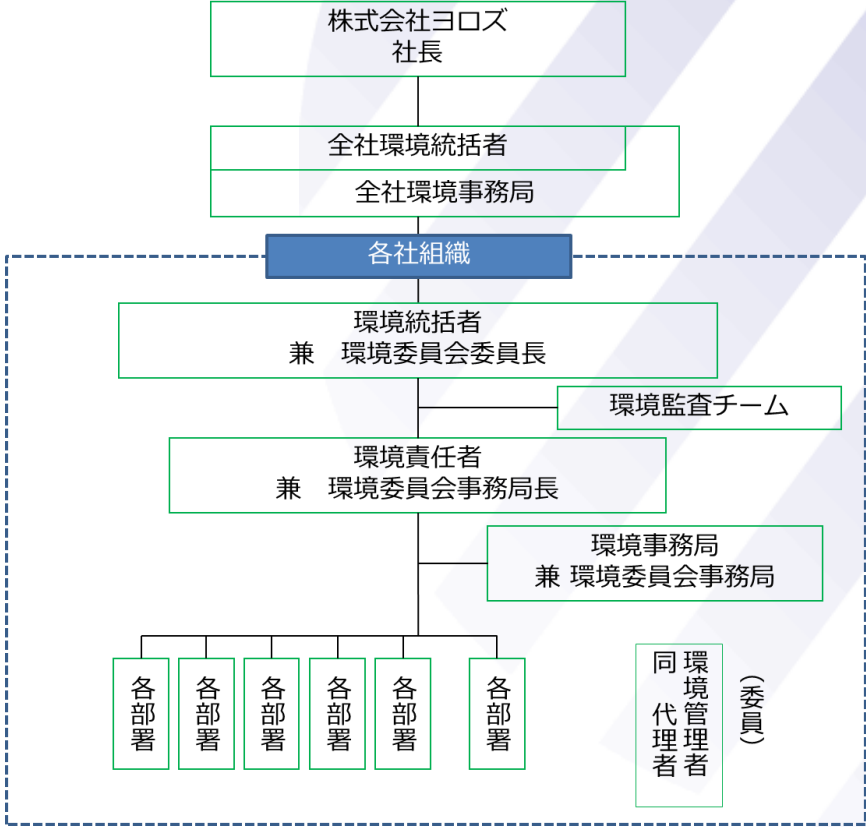
1. 環境マネジメントシステムの充実と継続改善
2. 環境汚染の予防（環境事故ゼロ）
3. 省エネルギー：CO2排出量原単位削減：▲18%（2012年度比）／2030年度
4. 廃棄物削減：廃棄物原単位削減：▲18%（2012年度比）／2030年度
5. 水削減：水原単位削減：▲15%（2015年度比）／2030年度
6. 省エネ、省資源に配慮した製品づくり
7. 環境負荷物質の削減
8. 地域社会との協調・共存
9. 環境保全に関する積極的な情報交流／開示

5) 2016年度 ヨロズグループ環境目標（国内7社）

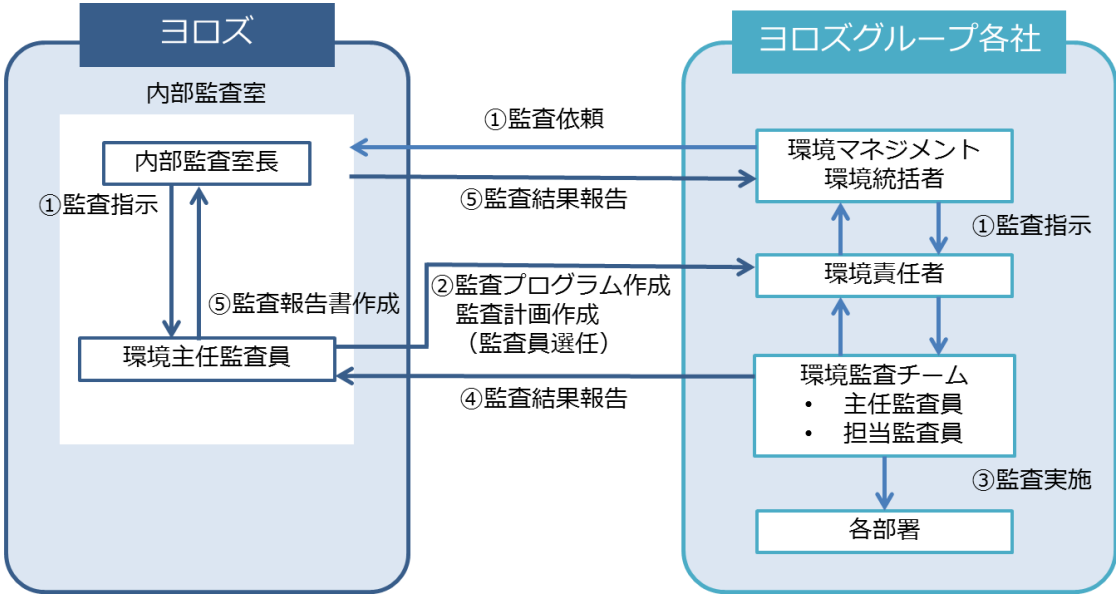
1. ISO14001認証の継続
2. 環境関係法令／各社管理値の順守
3. 省エネルギー：CO2排出量原単位の削減 ▲1%（2015年度比）
4. 廃棄物削減：廃棄物排出量原単位 ▲1%（2015年度比）
5. 水削減：水原単位削減 ▲1%（2015年度比）
6. 3R優良事業所の認定継続（横浜地区）
7. 軽量化製品の開発の推進
8. 規制物質を含まない材料選定とIMDSによる情報管理
9. 環境保全イベントへの参加回数 計画の100%以上
10. 「企業の環境経営度」調査報告 2016年10月

6) 環境組織

■ ヨロズグループ環境組織図



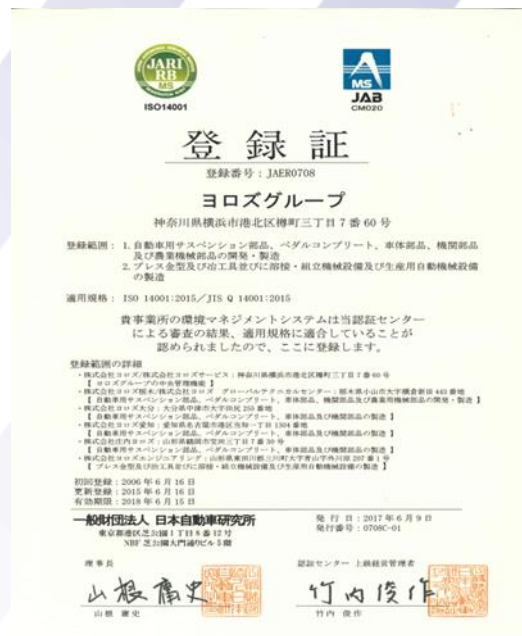
■ ヨロズ本社とグループ各社の組織および内部監査実施フロー



7) ヨロズグループ ISO14001認証取得状況

■ 国内

事業所	認証 取得日
ヨロズグループ6社統合	2009年 11月
(株)ヨロズ	
(株)ヨロズ栃木	
(株)ヨロズ大分	
(株)ヨロズ愛知	
(株)庄内ヨロズ	
(株)ヨロズエンジニアリング	



2017年度にISO14001:2015へ移行いたしました。

■ 海外

事業所	認証取得日
ヨロズオートモーティブテネシー社 (YAT)	2001年10月
ヨロズ メヒカーナ社(YMEX)	2002年08月
ヨロズ タイランド社(YTC)	2002年07月
ヨロズ オートモーティブ ノースアメリカ社(YANA)	2003年07月
广州萬宝井汽車部件有限公司(G-YBM)	2007年10月
ヨロズ JBM オートモーティブ タミル ナドゥ社(YJAT)	2013年12月
武漢萬宝井汽車部件有限公司(W-YBM)	2014年06月
ヨロズオートモーティブグアナファト デ メヒコ社(YAGM)	2015年09月
ヨロズオートモーティブインドネシア社 (YAI)	2016年10月
ワイ・オグラオートモーティブタイランド社 (Y-OAT)	2017年05月

記載のない新規海外拠点は、現在認証取得に向け計画・準備中

8) 環境教育

環境への意識を高めることを目的に環境教育を行っています。

環境教育内容

一般教育

- ・環境管理者教育
- ・環境影響評価者教育
- ・内部環境監査委員教育

環境変化点に関する教育

- ・化学物質管理
- ・省エネルギーの取り組み
- ・生物多様性に関する教育等
- ・改正フロン法
- ・E-ラーニング



6月に実施した月頭朝礼に合わせて環境宣言式を行いました。

9) 環境標語

環境への意識を高めるために、国内グループでは6月の環境月間にあわせて環境に関する標語を募集し、その中で優秀な標語に対して表彰を行っています。

優秀作品

1	品格と マナーがわかる ゴミ置場 (ヨロズ 開発部)
2	ゴミ分別 小さな配慮で 大きな効果に (ヨロズ 生産技術部)
3	捨てるゴミ。 ひらめき1つで財産に。(庄内ヨロズ 製造課)

■ 環境月間の取り組み

横浜本社では、横浜市が作成した環境に関するパネルを環境月間期間に食堂へ掲示しています。水、化学物質、地球温暖化、生物多様性、緑の保全に関する情報とミニクイズが記載されています。また今年は山形県鶴岡市の環境への取り組みについてのパネルをお借りし、庄内ヨロズへ展示させていただきました。所在の地域環境について知ること、取り組みの一步だと思えます。

これからも社員への啓蒙活動を続け、環境へ意識の高いひとを増やしていきます。(左下:庄内ヨロズ、右上:横浜本社)



10) 環境関連法規制対応状況



環境法規制の取り組み

2016年度における環境関連の事故等 ヨロズグループでの発生は、ありませんでした。



廃棄物処理量削減への取り組み

当社では3Rを積極的に取り組んできた結果、埋立て処分量はゼロを継続しております。また、廃棄物再資源化率100%を継続しております。

ヨロズグループでは廃棄物発生量削減活動を進めており、原単位削減自主目標1%削減に対し、26.3%の削減を行うことができました。次年度も継続して取り組みを実施いたします。



大気汚染防止への取り組み

生産工程から排出される硫黄酸化物(SOx)を抑制するため、LPGやLNGを利用し排気ガスの清浄化に取り組んでいます。



水質汚濁防止への取り組み

工場で使用する水についても、貴重な資源と捉え、工程内での再利用を図り使用量の削減を図るとともに、廃水についても水処理設備において処理を行い、河川等に放流を行っています。



化学物質の管理

従来より工程で使用される油脂、薬品、塗料といった資材について、採用前にSDSを入手して環境面での評価を行い、採用の可否若しくはより環境への影響度の低い物質への切替を行ってまいりました。また、PRTR法、REACH規制法を継続して順守していきます。

1 1) グリーン調達

当社ではグリーン購入法に基づいたグリーン調達を実施しています。
以下、『ヨロズ・グリーン調達ガイドライン』より抜粋

【お取引先様へのお願い事項】

お取引先様には、環境について以下の取り組みをお願い致します。

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用
2. 環境負荷物質の管理
3. 資源循環の取り組み

1 環境マネジメントシステムの構築と運用

- (a) すべてのお取引先様において、環境保全活動を推進し、継続的な改善活動を行うための環境マネジメントシステムの構築と運用をお願いします。
- ・ ISO14001などの外部認証の取得・継続更新
 - ・ またはそれに準じた環境活動の実施
- (b) お取引先様の事業活動における、環境関連法規等の遵守をお願いします。
- ・ 各国の環境関連法令・規則
 - ・ 対象得意先自動車メーカーの標準・規格類
- (c) すべてのお取引先様において、環境責任者および推進担当者の選任をお願いします。責任者、担当者の方を通じて、弊社との環境活動を推進してまいります。

2 環境負荷物質の管理

すべてのお取引先様において環境パフォーマンス向上の取り組みをお願いします。

<環境取り組み項目>

- ・ GHG (CO₂)、廃棄物、水の使用量の把握
- ・ 把握できている場合は、それらの削減活動（目標立案、削減計画立案、活動、確認）の実施。

※削減目標を立てる場合は、「対前年比 1%以上削減」を目安として下さい。

3 資源循環の取り組み

限りある資源を有効活用するため、お取引先様においてはリサイクル材の利用を推奨します。

- ・ 部品の端材の活用をご検討ください。
- ・ スクラップから再生した材料を部品に使用することをご検討ください。
- ・ 梱包資材の再利用をご検討ください。

1 2) 省エネルギーへの取り組み

低炭素社会に向け、温室効果ガス削減の取り組みを行っており、2030年度までに原単位で18%削減（2012年度比）を目標に活動を進めています。

エネルギーも貴重な資源（＝コスト）と捉え、「最大の効率と徹底したミニマムコスト」のスローガンの下、製造現場をはじめとした、製品開発・生産設備設計・物流・オフィスといった企業活動すべての領域において省エネルギー活動を実施しています。

2016年にパリ協定が発効された後の政府方針・業界団体の動向を独自で調査し、それらに整合のとれた長期目標を策定いたしました。目標達成に向け活動を進めいきます。



■ 物流での省エネ活動：事例紹介

従来では、アメリカのヨロズオートモーティブテネシー（YAT）で生産し、米国内のお客様へ納入していました。同種の製品を日本国内のお客様へも納入をしていましたが、米国内での生産が終了したため、生産場所を日本国内に移設し近接化を図りました。それによりCO2排出量は約70%削減されました。

他の製品輸送においても生産場所の最適化を推進し、近接地での納入による省エネに取り組んでおります。

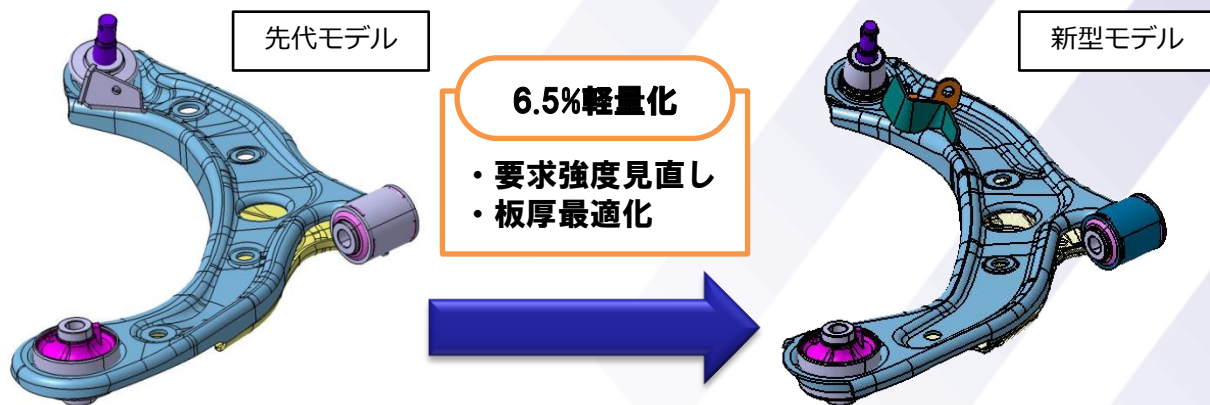


■ 省エネ製品の開発

① 軽量サスペンションアームの量産開始

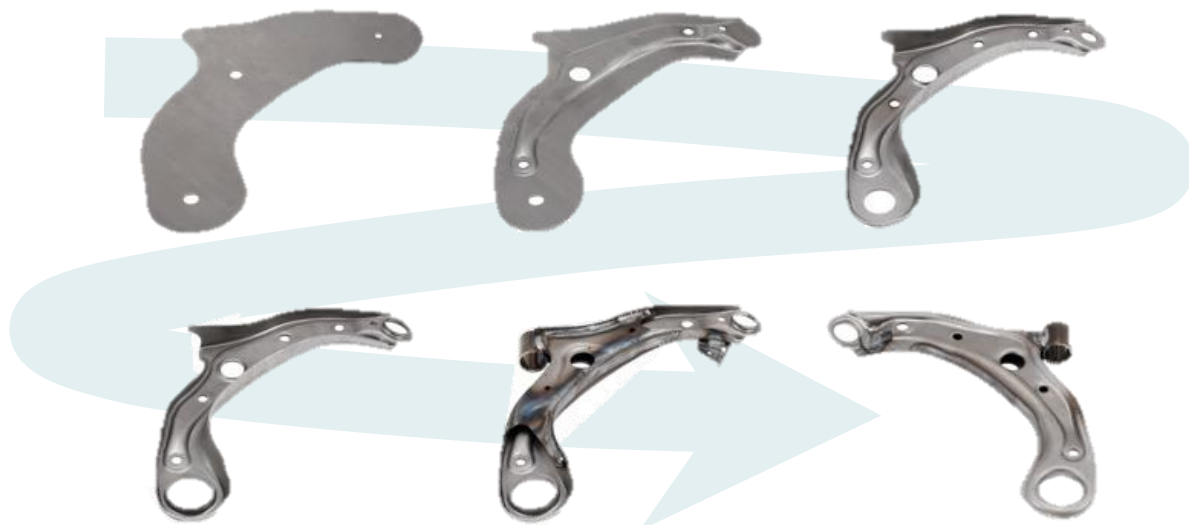
新型モデルの燃費向上に貢献する新設計の軽量サスペンションアームを開発し、2017年5月から量産を開始しました。

先代モデルのサスペンションアーム仕様をベースに、客先との共同開発により要求強度の見直しと、新スペックに基づく最適化設計・解析を実施しました。その結果、アーム本体板厚ダウンにより先代モデルのアームに対して6.5%の軽量化を実現しました。



② ハイテン材適用

自動車部品を設計する際、高強度のハイテン材を使用する事で薄板化しても普通鋼板と同じ強度を確保できるため軽量化を図れます。ハイテン材はプレス成形性が下がってしまう課題がありますが、設計・成形技術の向上により、フレームやアームなどの主要構造部材への適用を拡大しております。



■ 再生可能エネルギーの導入

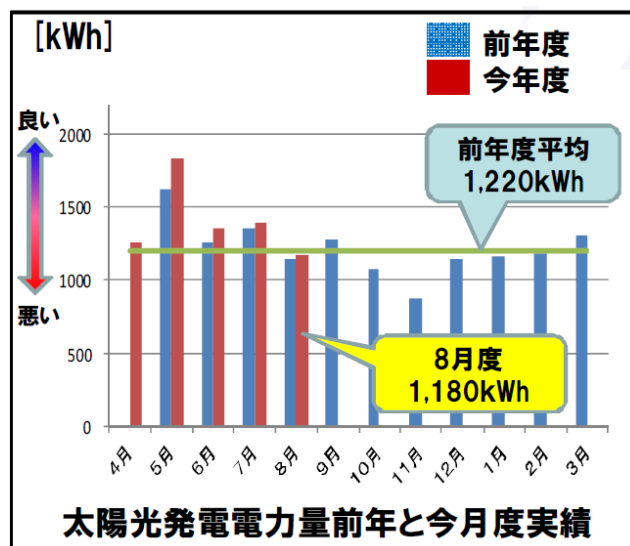
開発拠点であるヨロズグローバルテクニカルセンターでは、再生可能エネルギー設備（太陽光発電）を使用しています。発電状況は1フロアにて来客された方でも確認することができ、発電した電気は当ビル内にて使用しています。

また、2016年より本社を含めたグループ会社において再生可能エネルギーでの発電比率が高い、低CO2排出エネルギーを導入しました。

■ ヨロズグローバルテクニカルセンター（YGTC）の発電状況モニターおよび太陽光パネル



■ 毎月の実績集計グラフ



1 3) 廃棄物リサイクルへの取り組み

当社では廃棄物の削減の取り組みとして、毎年1%の原単位削減を目標に削減活動を進めています。また2006年以降、発生した産業廃棄物のリサイクル率100%（ゼロ・エミッション）を継続し、循環型社会の形成に貢献しています。



分別の徹底

品名	分別方法	処理方法	備考
紙類	紙類	資源回収	
プラスチック類	プラスチック類	資源回収	
金属類	金属類	資源回収	
ガラス類	ガラス類	資源回収	
その他	その他	資源回収	

搬出時の立会い



取引先確認



横浜市 3R優良事業所認定

ヨロズ（本社）では、6年連続で3R優良事業所として横浜市より認定を受け表彰されております。（過去の分別優良事業所から10年連続の表彰）

▶ 制度の概要

横浜市内の事業所から排出される一般廃棄物の減量化や資源化を促進するために顕著な功績のあった事業所を「3R活動優良事業所」として認定し、その取り組みを広く紹介することにより、事業者にも事業系廃棄物の分別排出や3R活動を積極的に取り組んでいただくことを目的としています。

認定基準は以下項目になります。

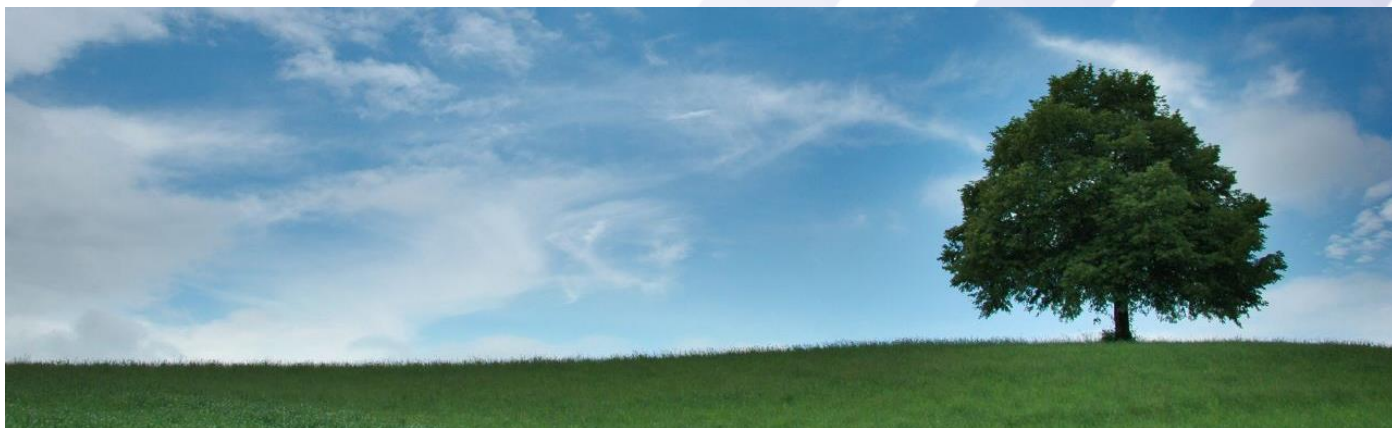
分別排出の徹底／従業員への環境教育の実施／再資源化の推進／紙ごみの減量化の推進／資源回収の推進／発生抑制の推進／社会貢献活動等 他



1 4) 生物多様性の取り組み

生物多様性保全の基本方針

**「ヨロズの事業活動で影響を及ぼす可能性のある
生物多様性に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。」**



行動指針

1. 生物多様性保全活動の社内教育活動

生物多様性基本法及び取組内容を共有する教育を行います。

2. 地域社会と連携した生物多様性保全活動への参加

地域と共同等の生物多様性に関する活動に積極的に参加します。
(生き物調査、地域のクリーン活動等)

3. 事業所を中心とした生物多様性保全への取り組み

事業所内の美化や緑地の維持管理を行い、生態系の保護を目指した取り組みを行います。

4. 生物多様性を育む社会づくりへの貢献

各種団体、外部組織との連携した自然保護活動等の取り組みへの積極的な参加を致します。

ヨロズでは、地域とのコミュニケーションを考え、地域活動に積極的に参加しています。
(清掃活動や生き物調査への参加)

■ 栃木県 「小山工業団地の生き物調査」への参加

ヨロズ栃木のある小山第一工業団地では、毎年7・9月の年2回近隣の横倉自治会主催の「生き物調査」に参加しています。

この地域では、団地企業が自社内で排水処理を行い農業用水路へ排水をしているため、処理状況が悪いと生態系が崩れ生き物が少なくなってしまう。

2016年はドジョウ・ザリガニをはじめ、魚やトンボ、チョウだけでなく水質悪化の影響を受けやすいカワニナや、マルタニシも見つかりました。

この活動は企業とNPO団体、自治会が協同するコミュニケーションの場でもあります。



■ 神奈川県 「森林づくり」への参加

神奈川県 (財)かながわトラストみどり財団の「森林づくり」に参加し、植栽を行いました。毎年秋に箱根町での植林があります。

森は「水源涵養」の機能を持っています。わたしたちが生きていく上で必要不可欠である水を生み出す重要なシステムです。ヨロズでは、塗装工程で多くの水をつかうため、水も貴重な資源と考え、このような活動へも参加しています。



1 5) 社会貢献活動

■ 愛知県「あいちCO2削減マニフェスト2020」認定されました

➤ あいちCO2削減マニフェスト2020とは？

事業者が2020年度のCO2排出量目標を設定し、CO2削減マニフェストに向けた取り組みを掲げて実施し、毎年実績報告を行うものです。また、CO2排出量の削減率に応じたランクアップ制度があり、最高は★★★（トリプルスター）です。

今回、ヨロズ愛知は宣言を愛知県へ提出し、県知事より認定を受けました。積極的な環境保全活動を推進し、★★★を目指します。



■ 海外拠点での活動

敷地内での植樹活動（メキシコ）

メキシコ第二拠点のYAGM（ヨロズグアナファトデメヒコ社）では、2013年にハカランダーを植樹しました。ハカランダーの花は、日本でいう桜にあたる春を告げる花です。立派な木に育つまで、あと10年ほどでしょうか。創立の翌年に植えた木が花を咲かせるまでに成長しました。これからもハカランダーの木と共に、会社も成長していけるように努力します。



安全と共に（タイ）

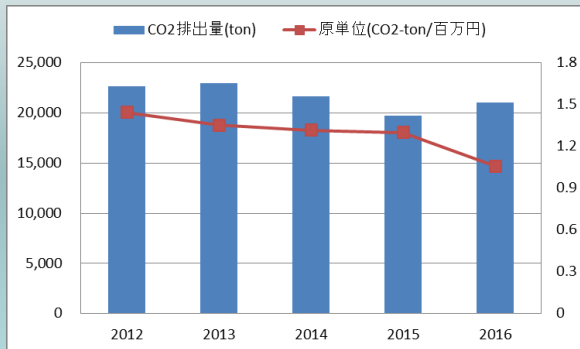
タイ第一拠点のYTC（ヨロズタイランド社）では、安全衛生と合わせて環境についての報告会を行い、社長、マネージャー、従業員みんなで活発に議論がされています。

ここで出たアイテムのひとつであるクーリングタワーの稼動時短縮では、約66 kg-CO2が年間削減されます。

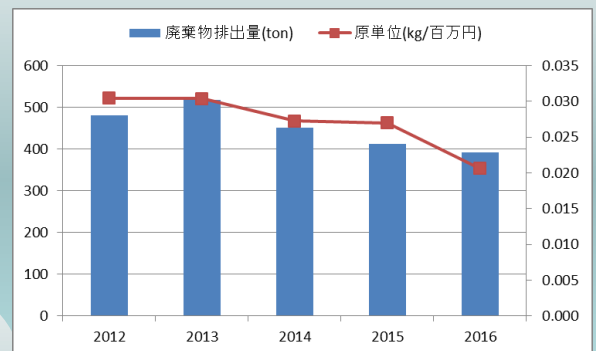


1 6) 環境データ集 (国内)

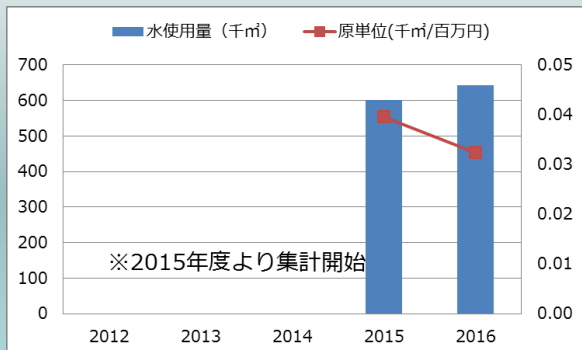
CO₂



廃棄物



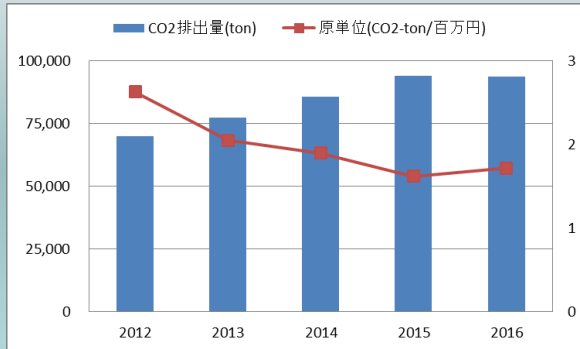
水



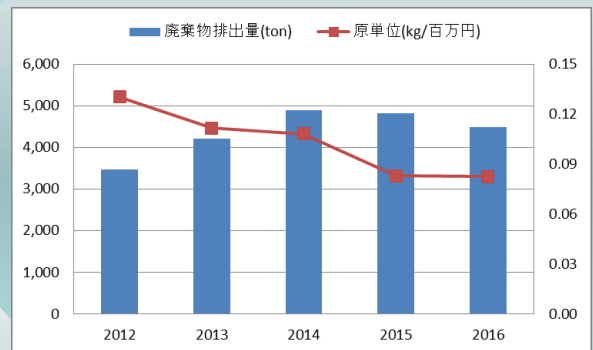
※原単位 = 排出量 / 付加価値額
 ※付加価値額 = 売上高 - 購入費
 ※CO₂は工場およびオフィスにおける温室効果ガス排出量 (Scope1、Scope2)

1 6) 環境データ集 (海外)

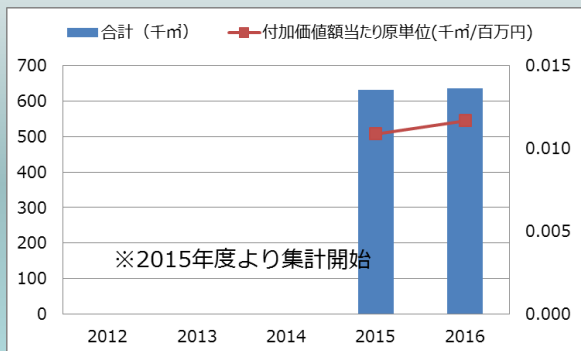
CO₂



廃棄物



水



※原単位 = 排出量 / 付加価値額
 ※付加価値額 = 売上高 - 購入費
 ※CO₂は工場およびオフィスにおける温室効果ガス排出量 (Scope1、Scope2)
 ※2016年度は海外拠点で原単位が悪化しておりますが、これは為替変動により付加価値額が減少したことが影響しております。
 為替レートを前年同一とした場合、対前年でCO₂▲8.7%、廃棄物▲14.5%、水▲7.7%の削減となっております。

1 6) 環境データ集 サプライチェーン排出量

2016年度 排出実績

		国内	ヨロズ グループ全体
Scope1, Scope2	工場およびオフィスにおける温室効果ガス排出量	21,007	114,512
Scope3	カテゴリ1：購入した商品・サービス (資源採取段階から製造段階までの排出量)	122,610	490,902
	カテゴリ2：資本財 (自社の資本財の建設・製造から発生する排出量)	11,676	45,192
	カテゴリ3：Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動 (自社が購入した電気・熱の製造過程における排出量)	550	6,770
	カテゴリ4：輸送、配送(上流) (購入した製品・サービスの物流に伴う排出量)	未算定	未算定
	カテゴリ5：事業から出る廃棄物 (事業活動から発生する廃棄物の廃棄と処理に関わる排出量)	181	3,800
	カテゴリ6：出張 (出張等従業員の移動の際に使用する交通機関に置ける排出量)	未算定	未算定
	カテゴリ7：通勤 (従業員の通勤時に使用する交通機関における排出量)	1,514	2,279
	カテゴリ8：リース資産(上流) (賃借しているリース資産の操業に伴う排出量)	0 (対象なし)	0 (対象なし)
	カテゴリ9：輸送、配送(下流) (製品の流通に伴う排出量)	1,771	5,576
	カテゴリ10：販売した製品の加工 (製造した中間製品が下流側の事業者で加工される際に発生する排出量)	未算定	未算定
	カテゴリ11：販売した製品の使用 (製品の使用に伴う排出量)	1,015,760	未算定
	カテゴリ12：販売した製品の廃棄 (製品の本体及び容器包装の廃棄と処理に係わる排出量)	197	1,262
	カテゴリ13：リース資産(下流) (他社に賃貸しているリース資産の運用に伴う排出量)	0 (対象なし)	0 (対象なし)
	カテゴリ14：フランチャイズ (フランチャイズ契約を締結している事業者におけるScope1、2の排出量)	0 (対象なし)	0 (対象なし)
	カテゴリ15：投資 (投資の運用に関する排出量 (Scope1、2に含まれないもの))	0 (対象なし)	0 (対象なし)
		排出量単位：CO ₂ -ton	

※Scope3は、環境省「サプライチェーン排出量算定の考え方」を基に算出しております。

YORÖZU

